

平成28年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成27年11月6日

上場会社名 株式会社 アイフリーク モバイル
 コード番号 3845 URL <http://www.i-freek.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 谷内 進
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役兼管理グループ長 (氏名) 紀伊 克彦
 四半期報告書提出予定日 平成27年11月13日
 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東

TEL 092-471-5211

(百万円未満切捨て)

1. 平成28年3月期第2四半期の連結業績(平成27年4月1日～平成27年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年3月期第2四半期	310	△49.9	△5	—	△0	—	△2	—
27年3月期第2四半期	620	△21.2	1	—	2	—	△58	—

(注) 包括利益 28年3月期第2四半期 △6百万円 (—%) 27年3月期第2四半期 △58百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円銭	円銭
28年3月期第2四半期	△0.21	—
27年3月期第2四半期	△5.18	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円銭
28年3月期第2四半期	546	78	14.0	6.51
27年3月期	720	82	11.1	6.84

(参考) 自己資本 28年3月期第2四半期 76百万円 27年3月期 80百万円

(注) 開示につきましては、連結財務諸表の開示が会社の実態をより正確に表すことから、個別財務諸表ではなく連結財務諸表を開示しております。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円銭	円銭	円銭	円銭	円銭
27年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
28年3月期	—	0.00	—	—	—
28年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成28年3月期の連結業績予想(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	円銭
通期	750	△27.8	10	△26.9	5	△68.5	2	—
								0.17

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 有
新規 一社 (社名) 、 除外 1社 (社名) 株式会社アイフリーク モバイル

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

28年3月期2Q	11,765,200 株	27年3月期	11,737,500 株
28年3月期2Q	300 株	27年3月期	300 株
28年3月期2Q	11,751,696 株	27年3月期2Q	11,229,833 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表の四半期レビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的である判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる過程及び業績予想のご利用に当たっては、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	5
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	5
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	5
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	5
4. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、雇用と所得環境の改善傾向が続くなか、各種政策の効果もあり、緩やかながら回復基調で推移しました。一方、個人消費は、原材料価格の高騰に伴う物価上昇により節約ムードが高まり、停滞傾向でありました。

当社グループの関連するモバイルコンテンツ業界におきましては、携帯電話利用者のフィーチャーフォン（以下「FP」という。）からスマートフォン（以下「SP」という。）への端末変更がより一層進み、さらに、タブレット端末の利用者が増えた結果、SP及びタブレット端末（以下「スマートデバイス」という。）の利用者が増加傾向にあります。これらの要因により、インターネットサービス及びアプリケーションの利用、電子書籍の閲覧等、スマートデバイスによるコンテンツ利用シーンが拡大しております。

このような経営環境のもと、当社グループは、引き続き、モバイルコンテンツ事業の持続的な成長と関連事業の育成を進めてまいりました。

コミュニケーションコンテンツ領域（『デココレ』、『photodeco+』等）におきましては、ユーザーの継続利用を促進するため、使いやすいユーザーインターフェースへの改善と追加機能の拡充、スタンプ画像の掲載等、引き続きスマートデバイスでのサービス強化を進めてまいりました。また、『デココレ』、『photodeco+』等のユーザー利用率の増加に努めてまいりましたが、更なるシェアの拡大には至りませんでした。今後は、『デココレ』の大規模リニューアルによるシェア拡大、『photodeco+』の機能追加等のサービス強化に取り組んでまいります。

ファミリーコンテンツサービス領域（『森のえほん館』等）におきましては、マルハニチロ株式会社制作の食育絵本「くまちゃん えほん」シリーズの配信を開始いたしました。企業向け電子絵本商品の中長期を見据える配信は、初めての取組みであり、毎年4冊ずつ、3年に渡り全12冊の絵本を配信いたします。また、絵本アプリは100万ダウンロード、読書回数4,000万回を達成し、利用者は増加傾向にあります。今後は、更なる認知、普及に向けた取組みが成長の課題と認識しております。

周辺事業の育成におきましては、「Pictbox」において、マグ&タンブラーブランド「thermo mug（サーモマグ）」の人気商品「Umbrella Bottle（アンブレラボトル）」のボディ表面を彩るイラスト投稿コンテストを開催いたしました。大賞作品及び優秀作品は、ラフォーレ原宿に展示するとともに、後日、商品化と販売を行うという初めての取組みにより、クリエイターの“創る”を応援する体制を整えてまいりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間における売上高は310,896千円（前年同期比49.9%減）、営業損失は5,205千円（前年同期は1,902千円の営業利益）、経常損失は613千円（前年同期は2,955千円の経常利益）、親会社株主に帰属する四半期純損失は2,454千円（前年同期は58,226千円の親会社株主に帰属する四半期純損失）となりました。

なお、第1四半期会計期間から、当社グループは単一セグメントに変更したため、セグメント別の記載を省略しております。

（注）製品名及びサービス名は商標又は登録商標です。

(2) 財政状態に関する説明

① 財政状態

流動資産は、前連結会計年度末に比べて142,506千円(23.2%)減少し、470,700千円となりました。これは主として、現金及び預金が82,853千円、売掛金が34,569千円減少したことによるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて30,096千円(29.2%)減少し、72,982千円となりました。これは主として、無形固定資産が3,542千円、投資その他の資産が27,058千円減少したことによるものであります。

繰延資産は、前連結会計年度末に比べて971千円(25.0%)減少し、2,915千円となりました。

以上の結果、総資産は、前連結会計年度末に比べて173,574千円(24.1%)減少し、546,598千円となりました。

流動負債は、前連結会計年度末に比べて156,282千円(37.5%)減少し、260,573千円となりました。これは主として、短期借入金が125,000千円、1年内返済予定の長期借入金が8,908千円減少したことによるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べて13,199千円(6.0%)減少し、207,592千円となりました。これは主として、長期借入金が10,988千円減少したことによるものであります。

以上の結果、負債合計は、前連結会計年度末に比べて169,482千円(26.6%)減少し、468,165千円となりました。

純資産は、親会社株主に帰属する四半期純損失2,454千円を計上したことにより、前連結会計年度末に比べて4,092千円(5.0%)減少し、78,433千円となりました。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期累計期間における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、当第2四半期連結累計期間の期首に比べて82,853千円減少し、338,935千円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

(営業活動におけるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果獲得した資金は、32,374千円(前年同期は4,274千円の獲得)となりました。これは主として、売上債権の減少額34,569千円、未収入金の減少額7,699千円、法人税等の還付額15,025千円等により資金が増加したものの、未払金の減少額1,914千円、未払消費税等の減少額26,735千円等により資金が減少したことによるものであります。

(投資活動におけるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果獲得した資金は、30,317千円(前年同期は20,771千円の使用)となりました。これは主として、有形固定資産の売却による収入14,191千円、敷金の回収による収入20,393千円等により資金が増加したものの、有形固定資産の取得による支出4,459千円、無形固定資産の取得による支出2,107千円により資金が減少したことによるものであります。

(財務活動におけるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用された資金は、145,545千円(前年同期は90,885千円の使用)となりました。これは主として、新株予約権の行使による株式の発行による収入2,861千円により資金が増加したものの、短期借入金の純減少額125,000千円、長期借入金の返済による支出19,896千円、リース債務の返済による支出2,040千円等により資金が減少したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社は、平成27年7月1日付けで当社の連結子会社でありました株式会社アイフリーク モバイルを吸収合併したことにより、平成28年3月期第2四半期決算より非連結決算へ移行いたしました。これに伴い、通期の個別業績予想数値を次のとおり決定し、平成27年11月6日に公表しております。

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回公表予想 (A)	—	—	—	—	—
今回公表予想 (B)	750	10	5	△87	△7円39銭
増減額 (B - A)	—	—	—	—	—
増減率 (%)	—	—	—	—	—
(参考) 前期実績 (平成27年3月期)	214	16	10	△98	△8円72銭

(注) 前回公表予想につきましては、当社は、連結業績予想を公表していたため、業績予想数値、増減額及び増減率につきましては、記載をしておりません。なお、株式会社アイフリーク モバイルとの合併に伴い、特別損失といたしまして抱合せ株式消滅差損を計上しました結果、当期純損失87百万円と予想しておりますが、株式会社アイフリーク モバイルは、当社の完全子会社であるため、連結業績及び連結純資産に与える影響はありません。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

（1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

当第2四半期連結累計期間におきまして、当社の連結子会社であった株式会社アイフリーク モバイルは、当社を吸収合併存続会社、株式会社アイフリーク モバイルを吸収合併消滅会社とする吸収合併を行ったことにより、平成27年7月1日付けで解散しております。

同社が行っておりました事業は当社が継承しており、当社グループとして営んでおります事業の内容に変更はありません。

なお、当社は、平成27年7月1日付けで株式会社アイフリーク モバイルに商号を変更いたしました。

（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

「企業結合に関する会計基準」（企業会計基準第21号 平成25年9月13日）、「連結財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第22号 平成25年9月13日）及び「事業分離等に関する会計基準」（企業会計基準第7号 平成25年9月13日）等を第1四半期連結会計期間から適用し、四半期純利益等の表示の変更及び少数株主持分から非支配株主持分への表示の変更を行っております。当該表示の変更を反映させるため、前第2四半期連結累計期間及び前連結会計年度については、四半期連結財務諸表及び連結財務諸表の組替えを行っております。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループは、前連結会計年度において、スマートデバイスのサービス強化及び企業向け電子絵本商品のメニュー強化、不採算事業からの撤退や徹底した固定費の削減施策を行い、グループ内の各事業部門の選択と集中をより強く推進し、経営資源をモバイルコンテンツ事業へ集約する体制の整備と財務基盤の強化を図りました。

これらの施策が功を奏し、前連結会計年度において、営業利益及び経常利益を計上しております。しかしながら、営業キャッシュ・フローは継続してマイナスであり、収益力が安定したと判断するのは時期尚早であることから、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在していると判断しております。

この改善策といたしまして、当連結会計年度におきましては、平成27年7月1日に当社グループの売上高を構成するモバイルコンテンツ事業を営んでおりました株式会社アイフリーク モバイルを吸収合併し、従来の「純粋持株会社体制」から「事業会社体制」に移行することにより、昨今の経済情勢の変化に対応するとともに、より一層のお客様視点に立った経営及び経営の一層の効率化を進めております。また、モバイルコンテンツ事業の中核であります『デココレ』『photodeco+』等のコミュニケーションコンテンツ領域及び『森のえほん館』等のファミリーコンテンツサービス領域の一層のサービス強化により、営業利益の確保及び営業キャッシュ・フローの更なる改善を見込んでおります。

事業資金面につきましても、引き続き取引金融機関と良好な関係にあり、当面の事業資金の確保はなされていることから、少なくとも今後1年間の資金繰りに重大な支障をきたすような状況にはありません。

以上のことから、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しておりますが、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないと判断し、「継続企業の前提に関する注記」の記載には至りませんでした。

4. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	421,774	338,921
売掛金	152,244	117,674
有価証券	14	14
仕掛品	—	15
その他	39,704	14,635
貸倒引当金	△531	△560
流動資産合計	613,207	470,700
固定資産		
有形固定資産	20,698	21,203
無形固定資産	17,992	14,450
投資その他の資産	64,386	37,328
固定資産合計	103,078	72,982
繰延資産	3,887	2,915
資産合計	720,173	546,598
負債の部		
流動負債		
買掛金	8,252	8,716
短期借入金	300,000	175,000
1年内返済予定の長期借入金	39,792	30,884
未払法人税等	—	1,615
その他	68,811	44,357
流動負債合計	416,855	260,573
固定負債		
社債	200,000	200,000
長期借入金	10,988	—
資産除去債務	5,199	5,223
その他	4,604	2,368
固定負債合計	220,792	207,592
負債合計	637,647	468,165
純資産の部		
株主資本		
資本金	652,682	654,171
資本剰余金	652,687	654,177
利益剰余金	△1,221,648	△1,224,102
自己株式	△34	△34
株主資本合計	83,686	84,211
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△3,391	△7,669
その他の包括利益累計額合計	△3,391	△7,669
新株予約権	2,230	1,891
純資産合計	82,525	78,433
負債純資産合計	720,173	546,598

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
売上高	620,376	310,896
売上原価	320,959	115,163
売上総利益	299,416	195,733
販売費及び一般管理費	297,513	200,938
営業利益又は営業損失(△)	1,902	△5,205
営業外収益		
受取利息	31	28
受取配当金	2,270	245
貸倒引当金戻入額	3,872	2,231
その他	1,394	5,426
営業外収益合計	7,568	7,932
営業外費用		
支払利息	2,360	2,077
社債発行費償却	971	971
新株予約権発行費	2,000	—
その他	1,184	290
営業外費用合計	6,515	3,340
経常利益又は経常損失(△)	2,955	△613
特別利益		
新株予約権戻入益	—	220
特別利益合計	—	220
特別損失		
貸倒引当金繰入額	59,484	—
特別損失合計	59,484	—
税金等調整前四半期純損失(△)	△56,528	△392
法人税等	1,697	2,061
四半期純損失(△)	△58,226	△2,454
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△58,226	△2,454

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)
四半期純損失(△)	△58,226	△2,454
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△621	△4,278
その他の包括利益合計	△621	△4,278
四半期包括利益	△58,847	△6,732
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△58,847	△6,732

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失(△)	△56,528	△392
減価償却費	26,131	9,296
貸倒引当金の増減額(△は減少)	55,222	29
社債発行費償却	971	971
新株予約権発行費	2,000	—
売上債権の増減額(△は増加)	30,932	34,569
たな卸資産の増減額(△は増加)	2,942	△15
未収入金の増減額(△は増加)	△224	7,699
前渡金の増減額(△は増加)	25,544	30
仕入債務の増減額(△は減少)	△12,669	464
未払金の増減額(△は減少)	△36,237	△1,914
未払消費税等の増減額(△は減少)	4,886	△26,735
その他	△559	△1,879
小計	42,412	22,123
法人税等の支払額	△38,137	△4,774
法人税等の還付額	—	15,025
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,274	32,374
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	—	△4,459
有形固定資産の売却による収入	—	14,191
無形固定資産の取得による支出	△34,426	△2,107
敷金の回収による収入	11,353	20,393
その他	2,301	2,299
投資活動によるキャッシュ・フロー	△20,771	30,317
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△44,000	△125,000
長期借入金の返済による支出	△43,206	△19,896
リース債務の返済による支出	△1,941	△2,040
新株予約権の発行による収入	322	—
新株予約権の行使による株式の発行による収入	94	2,861
その他	△2,153	△1,469
財務活動によるキャッシュ・フロー	△90,885	△145,545
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△107,382	△82,853
現金及び現金同等物の期首残高	435,288	421,789
現金及び現金同等物の四半期末残高	327,906	338,935

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第2四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額(注)2
	モバイルコン テンツ事業	Eコマース 事業			
売上高					
外部顧客への売上高	460,192	160,183	620,376	—	620,376
セグメント間の内部売 上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	460,192	160,183	620,376	—	620,376
セグメント利益又は 損失(△)	115,315	△2,952	112,363	△110,460	1,902

(注) 1 セグメント利益又は損失の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第2四半期連結累計期間(自平成27年4月1日至平成27年9月30日)

当社グループは「モバイルコンテンツ事業」の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(報告セグメントの変更等に関する事項)

当社グループは、従来「モバイルコンテンツ事業」、「Eコマース事業」の2事業を報告セグメントとしておりましたが、前連結会計年度において、「Eコマース事業」を営んでおりました株式会社アイフリーク プロダクツ セールスの保有株式の全てを第三者に譲渡し、同事業から撤退しております。

これにより、「モバイルコンテンツ事業」の単一セグメントとなることから、当第2四半期連結累計期間のセグメント情報の記載を省略しております。